

## 17) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

目的:安心してゆとりのある暮らしができるようにする

指標:安心やゆとりを感じている人の割合

### ① 目的

都市基盤の整備がある程度充足された現在、市民が求める生活は、量的な充足から質的向上へと変化し、住環境や自然環境に対する関心が高まり、災害や日常生活に対する安全性の向上が求められるとともに、より環境にやさしい生活スタイルが望まれており、安心してゆとりある社会づくりが重要と考えます。

### ② 指標

環境負荷低減、防災上の安全確保、消費生活におけるトラブルの減少は、暮らしに安心感を与え、住環境の拡大や自然環境の保全は、多くの人々にゆとり感を与えます。これらの安心やゆとりを感じている人の割合を増えることを目指します。

### ③ 設問

この指標は、「安心やゆとりの6項目の満足度」を組み合わせ聞いている。「地域・態度（評価）」

「保健・医療・福祉サービス」「緑地・河川などの自然環境」「空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ」「まち並み、建物などまち全体の景観」「住環境のゆとりなどの住宅事情」「事故や災害に強い安全なまち」の6項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれどの程度満足していますか。(1つに○)

- |            |              |         |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である  | 5 きわめて不満である  | 6 わからない |

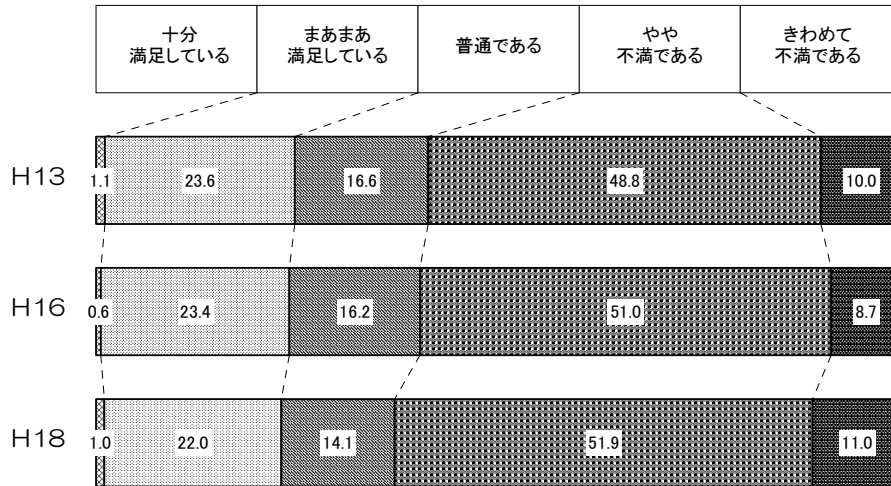
### ④ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度(目標値)
十分満足している	1. 1%	0. 6%	1. 0%	
まあまあ満足している	23. 6%	23. 4%	22. 0%	
計	24. 6%	24. 0%	23. 0%	30. 0%

### ⑤ 指標の分析

#### ◆ 安心やゆとりに関する満足度は僅かながら減少、安心感や安全性を求める地域ニーズ

日ごろ生活する中で、安心やゆとりに満足を感じている人の割合は、前回から僅かに減少し、平成19年度目標値には7.0ポイントの開きがある。保健福祉サービスや地域環境全般に関わる総合的な指標であり、少子高齢化や環境の保全、地域安全の確保など、社会的背景も踏まえ増大するニーズ・課題に対応していくことが求められ、今後も幅広い分野・対象への取り組みを継続していく必要がある。



注) 安心やゆとりの6項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出している。  
 ・ Q17ア、ケ、コ、サ、シ、スの6つの質問の選択肢に表1の評価点をそれぞれ与える。  
 ・ 6つの質問の評価点の合計点を表2にしたがい分布をとる。

表1

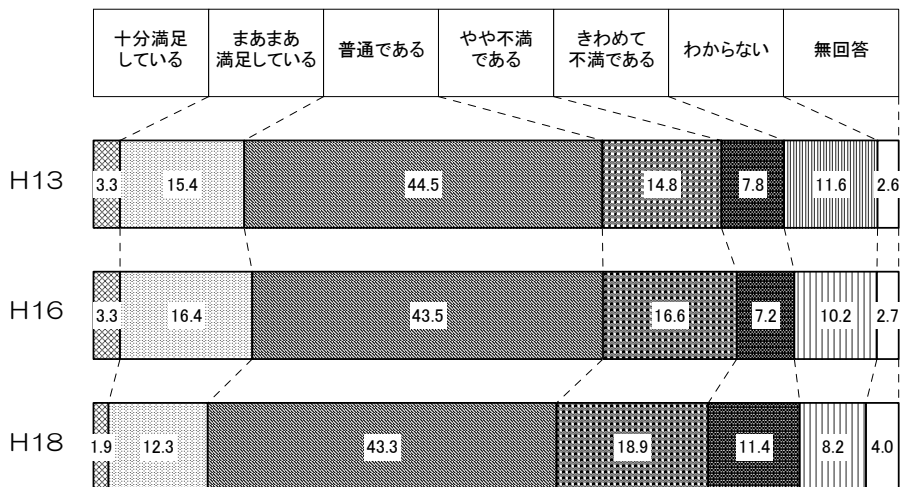
①「十分満足」	+2
②「まあまあ満足」	+1
③「普通」	0
④「やや不満」	-1
⑤「きわめて不満」	-2

表2

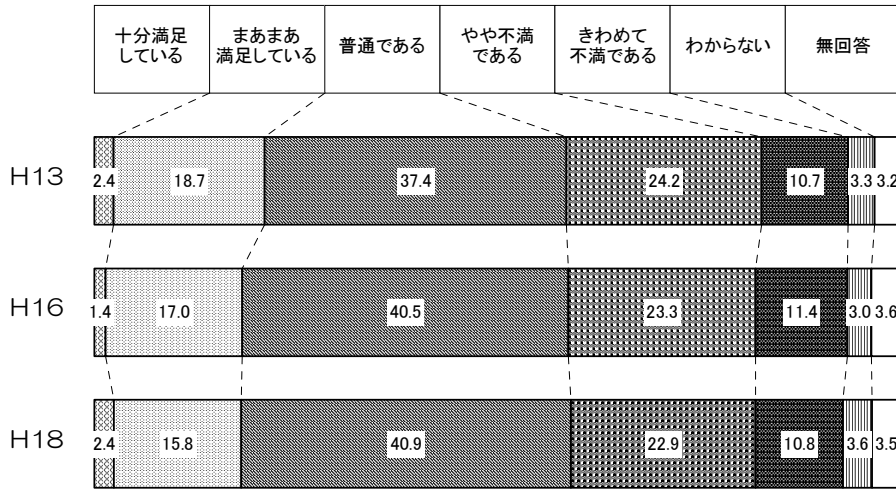
① 7点以上 (十分満足している)
② 1~6点 (まあまあ満足している)
③ 0点 (普通である)
④ -1~-6点 (やや不満である)
⑤ -7点以下 (きわめて不満である)

「安心やゆとりの6項目の満足度」に関する各項目ごとにもみると、保健・医療・福祉の“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度が5ポイント強減少しており、保健・医療・福祉サービスへの不満度の増大がみてとれる。自然環境、公害、景観、住宅事情、まちの安全性などについては、ほぼ横ばいとなっている。

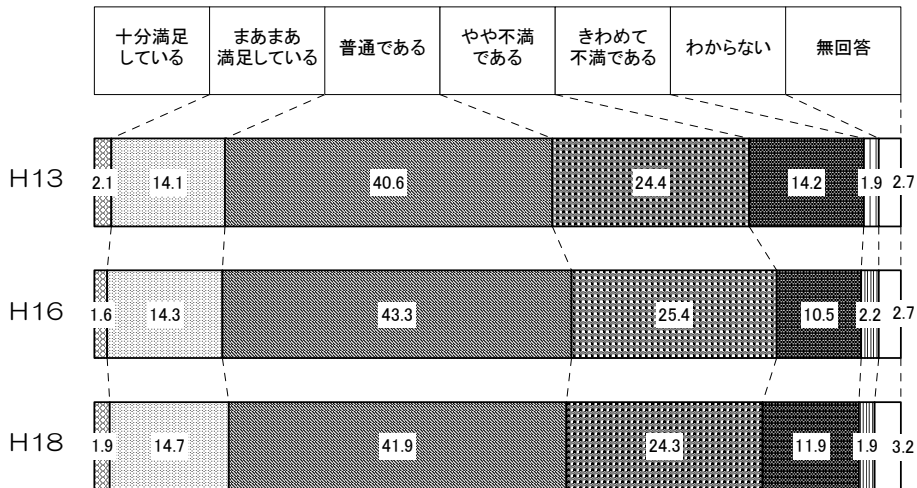
【保健・医療・福祉サービス】



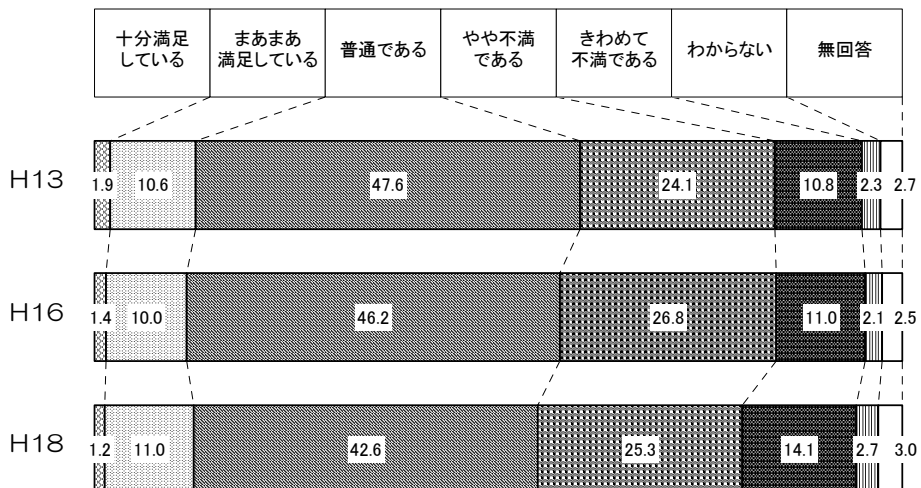
【緑地・河川などの自然環境】



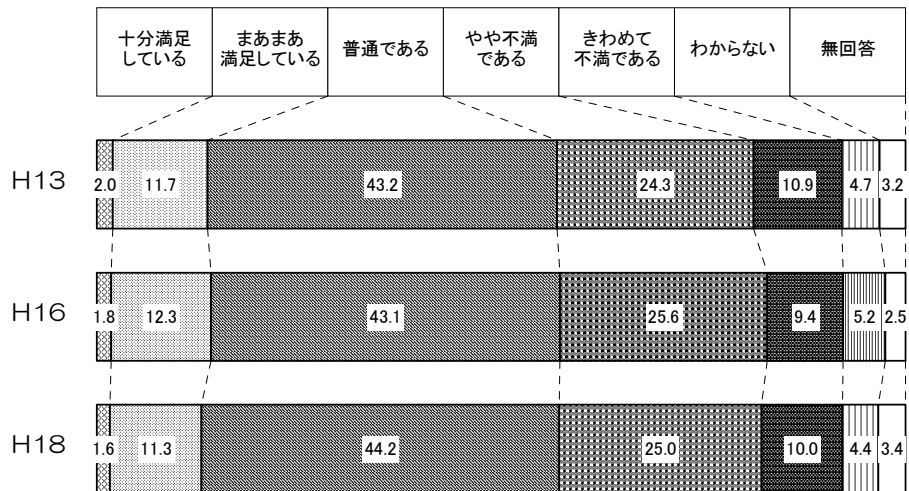
【空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ】



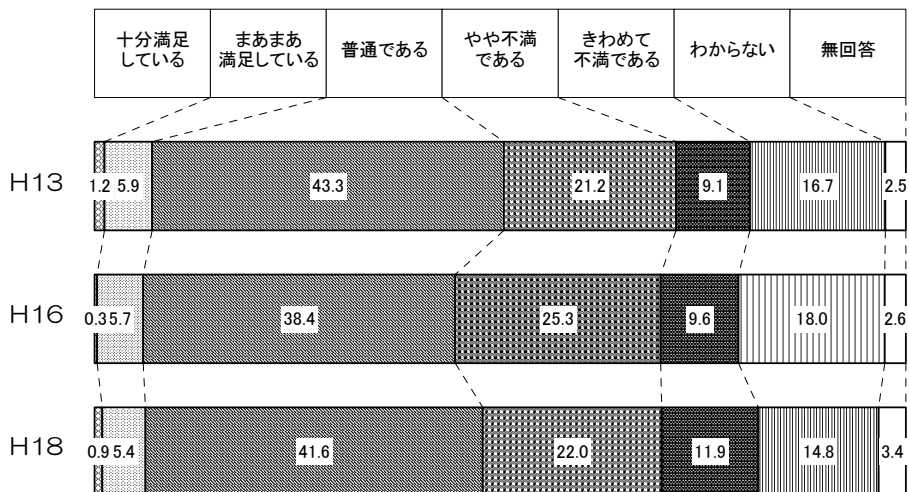
【まち並み、建物などまち全体の景観】



【住環境のゆとりなどの住宅事情】



【事故や災害に強い安全なまち】



## 18) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

### 第2項 人と自然が共生するまちづくり

目的:緑や水にふれあえるようにする

指標:緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

#### ① 目的

市民は、自由時間の増大などにより、自然とふれあう余暇活動や、緑や川のボランティア活動への参加といった生活意識の変化に伴い、ゆとり、潤い、安らぎを豊かな緑や水辺に求めています。また、緑には機能面では環境保全、レクリエーション、防災および景観といった大切な役割があり、河川には治水・利水機能だけでなく多様な自然環境や水辺空間を活かした潤いのある生活と、地域の文化を育む場としての役割が求められています。

#### ② 指標

緑や水にふれあう度合いが増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を測ります。

#### ③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「地域・態度（評価）」

「緑地・河川などの自然環境」の項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれの程度満足していますか。(1つに○)

- |            |              |         |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である  | 5 きわめて不満である  | 6 わからない |

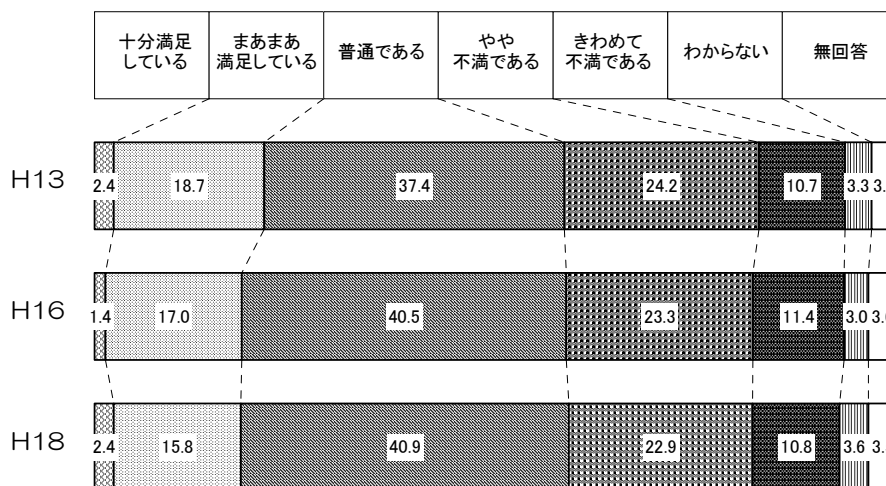
#### ④ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度（目標値）
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	
計	21.1%	18.4%	18.2%	25.0%

#### ⑤ 指標の分析

##### ◆ 自然環境に対する満足度は横ばい

緑地や河川などの自然環境についての満足度は、前回とほぼ同様の結果となっている。平成19年度目標値には、6.8ポイントの開きがある。



性別でみると、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度は男性の方がやや多いが、顕著な差はみられない。

【性別別自然環境】

	“十分満足している”と “まあまあ満足している”の合計比率	“普通である”の比率	“やや不満である”と “きわめて不満である”の比率	
男性	H16	19.3	43.5	37.2
	H18	21.4	42.6	36.0
女性	H16	20.0	42.8	37.1
	H18	18.2	45.3	36.5

年齢別にみると、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度は70歳以上で3割を超えているが、一方“やや不満である”と“きわめて不満である”を合わせた不満度は、若年齢層から中壮年層で比較的高くなっている。

【年齢別自然環境】

	“十分満足している”と “まあまあ満足している”の合計比率	“普通である”の比率	“やや不満である”と “きわめて不満である”の比率	
20～29歳	H16	20.5	37.1	42.4
	H18	18.8	39.0	42.2
30～39歳	H16	25.6	39.1	35.3
	H18	20.1	47.1	32.8
40～49歳	H16	14.2	39.7	46.1
	H18	14.0	42.6	43.4
50～59歳	H16	15.7	41.0	43.3
	H18	16.0	42.4	41.7
60～69歳	H16	19.4	49.1	31.5
	H18	21.6	45.3	33.0
70歳以上	H16	22.1	52.4	25.5
	H18	30.3	45.5	24.2

## 19) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

### 第4項 安全で安心な地域環境づくり

目的:日常生活における火災・交通事故および地震等の災害が発生した時に被害を少なくする

指標:災害に対して自ら対策を講じている人の割合

#### ① 目的

災害はいつどこで発生するのか分かりません。市民が安心して日常生活を送ることができるまちをつくるために、市民と行政が協力して、災害が発生しても最小限の被害で止めることができる「災害に強いまちづくり」が重要と考えます。

#### ② 指標

ひとたび大地震が起これば建物の倒壊、火災、ライフライン等への多大な被害が発生し、人的被害が拡大する危険が潜んでいます。これらの被害を最小限に抑えるためには、行政による防災体制の確立を図るとともに、地域住民の防火防災意識の高揚や自主的な訓練など、日ごろからの備えが極めて重要です。

#### ③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

あなたは日頃、防災のための準備をしていますか。(全てに○)

- |               |               |                |
|---------------|---------------|----------------|
| 1 消火器の設置      | 2 家具などの転倒防止   | 3 水や食糧の備蓄      |
| 4 非常持ち出し用品の確保 | 5 身内との連絡方法の確立 | 6 避難経路や避難場所の確認 |
| 7 防災訓練などへの参加  | 8 その他( )      | 9 特に準備はしていない   |

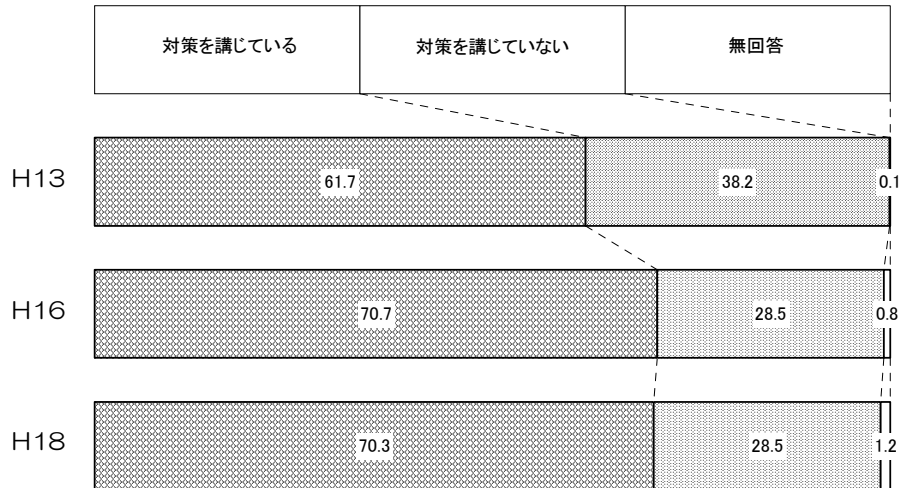
#### ④ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度(目標値)
対策を講じている	61.7%	70.7%	70.3%	70.2%

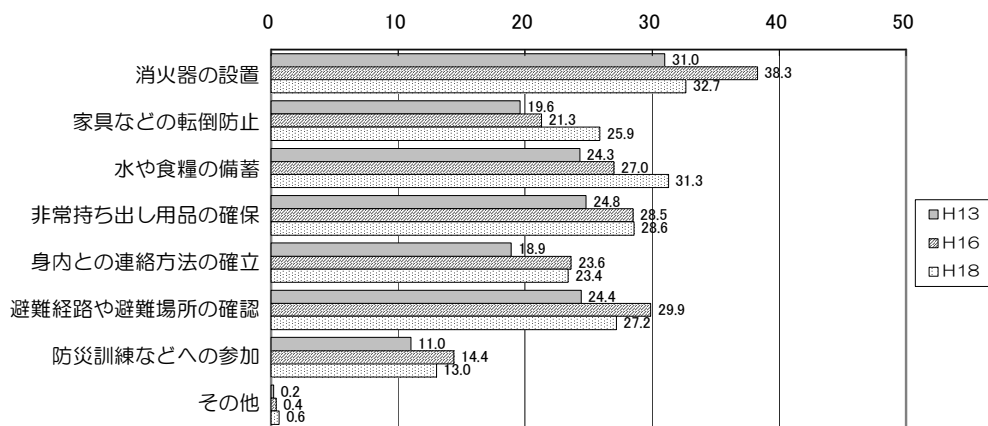
#### ⑤ 指標の分析

##### ◆ 災害に対する備えをする人は、横ばいで推移

災害に対して何らかの対策を講じている人は、前回同様7割となっており、平成19年度目標を達成している。さまざまな災害が伝えられ、国内においても地震や台風などの大災害が発生している昨今、市民一人ひとりの防災に対する関心も、高まっていることがうかがえる。

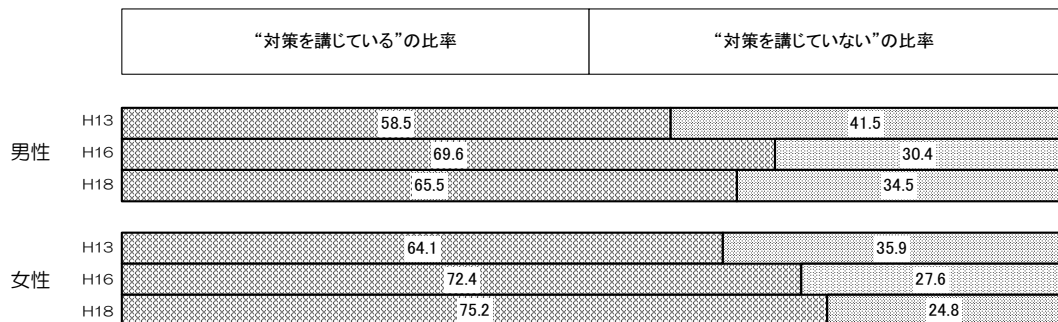


対策を講じている内容としては、“消火器の設置”と“水や食料の備蓄”とする人が3割を超えて比較的高くなっている。また、前回との比較で増加する傾向にある項目としては、“家具などの転倒防止”、“水や食料の備蓄”があげられる。



性別でみると、女性の方が対策を講じている人の割合がやや多い。

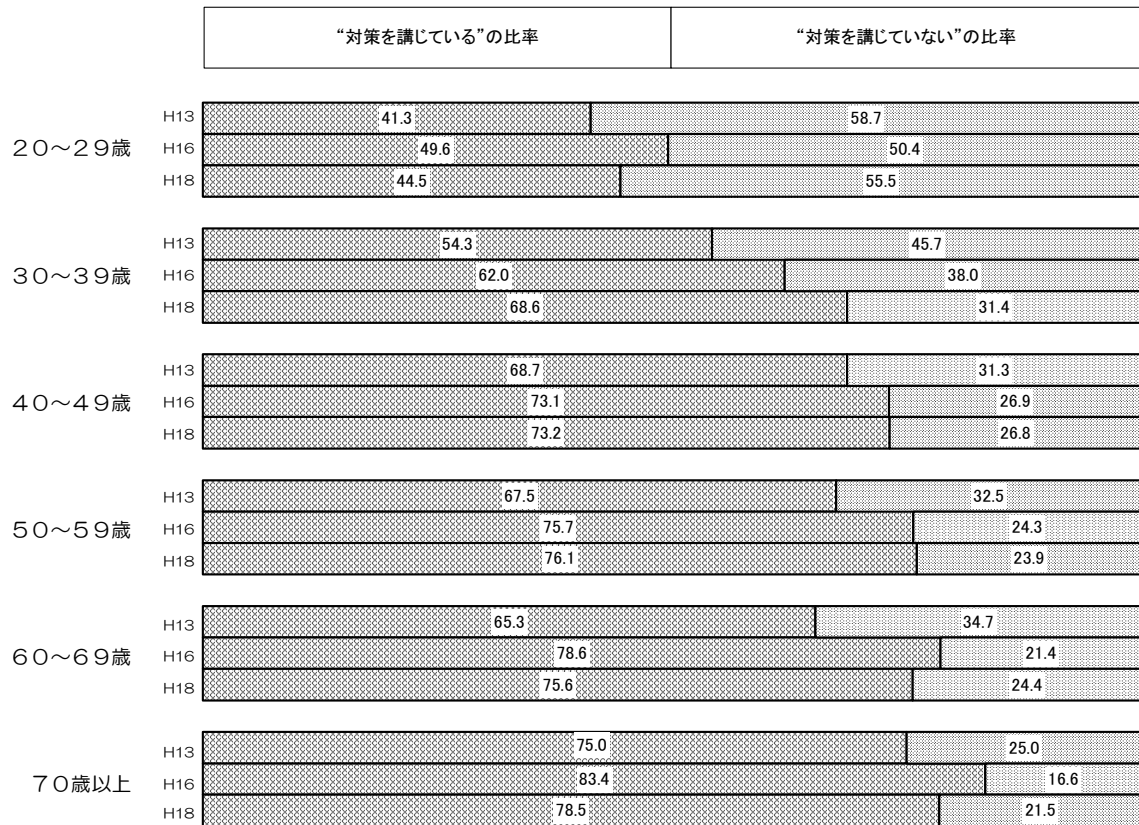
【性別防災意識】





年齢別にみると、年齢層が上がるにつれ、対策を講じている人の割合が高くなっており、20歳代を除く世代で6割を超える結果となっている。

【年齢別防災意識】



## 20) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

### 第5項 自立をめざした消費者行政の推進

目的:商品やサービスの購入時に、トラブルに巻き込まれることが少なくなる

指標:商品やサービスの購入時に、トラブルに巻き込まれた人の割合

#### ① 目的

消費者生活に関する相談件数は、年々増加の一途をたどっています。

販売形態の多様化や悪質商法によってトラブルに巻き込まれてしまうことが多くあり、なかでも、キャッチセールスやアポイント商法等の被害が多い若者（10代、20代）や催眠商法等の被害が多い高齢者（60代以上）の相談が相談件数の4割以上を占めています。

また、相談件数の多い30代では、資格商法やマルチ商法等の被害に巻き込まれてしまうケースが目立っています。このような多様化するトラブルに市民が巻き込まれないようにすることが必要と考えます。

#### ② 指標

消費者トラブルに巻き込まれた人の割合を減少させ、自立した消費行動をとれるよう支援していきます。

#### ③ 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いている。「個人・行動」

設問:あなたは、この1年間に買い物などの消費の際にトラブルや被害にあったことがありますか。

(全てに○)

- 1 店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 2 訪問販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 3 通信販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 4 電話勧誘販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 5 その他( )
- 6 トラブルや被害にあっていない

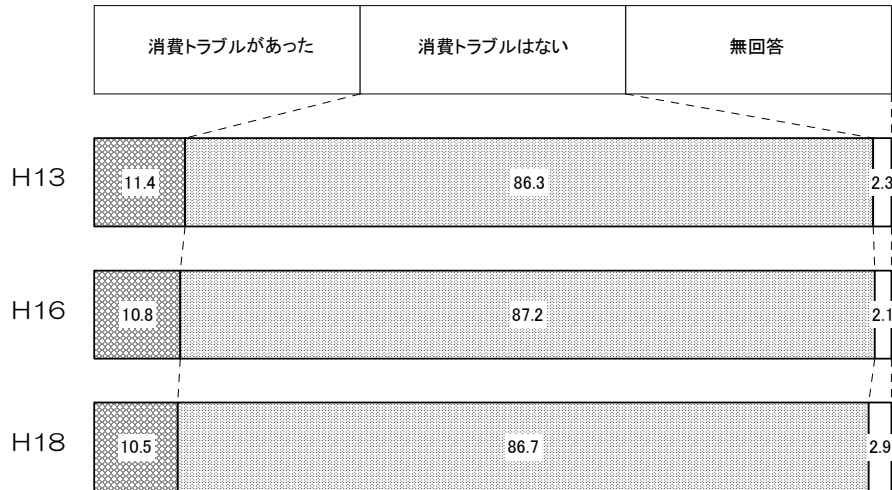
#### ④ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度(目標値)
トラブルや被害に巻き込まれた	11.4%	10.8%	10.5%	10.0%

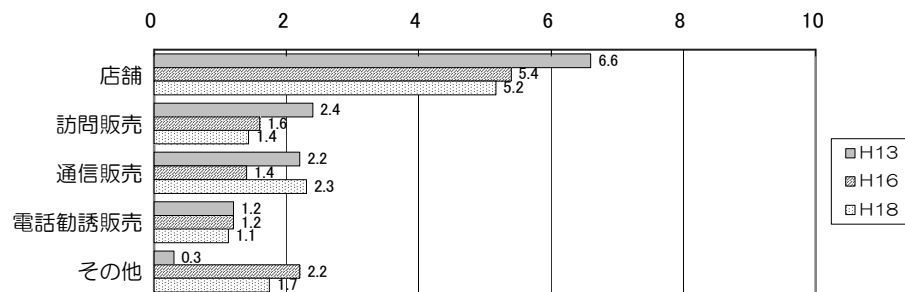
## ⑤ 指標の分析

### ◆ 消費者トラブルにあう人は横ばい

消費者トラブルにあったことのある人の割合は、前回に比べほぼ横ばいとなっており、平成19年度目標値に近づきつつある状況となっている。回答者全体に占める割合は少ないものの、消費者トラブルの多様化、複雑化が進む今日、未然防止に向けた消費者保護対策にさらに取り組んでいく必要がある。

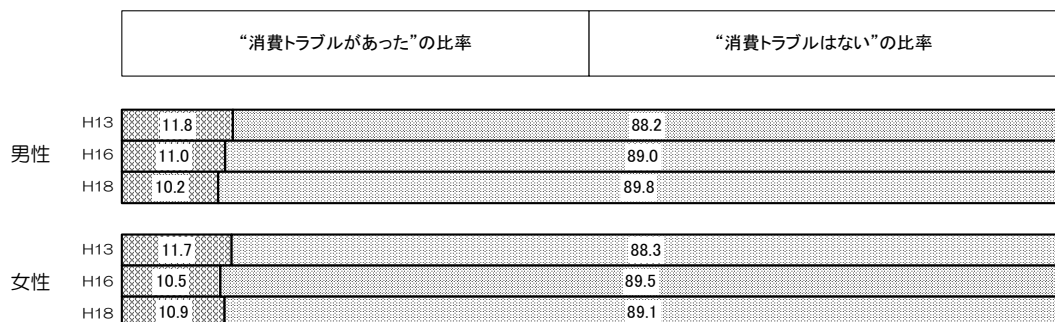


トラブルや被害の内容としては、前回同様“店舗”によるものが最も多くなっている。“通信販売”は前回に比べ僅かであるが増加している。



性別による違いはほとんどみられない。

#### 【性別消費トラブル】



年齢別にみると、何らかのトラブルにあっていない人の割合は年齢層にかかわらず1割前後みられる。

【年齢別消費トラブル】

